

是彼會員

IT難民のつづやき

福島靖男（会員）

新型コロナウイルスが感染法上の

「5類」に移行したとはいえ、足掛け4年も続いた行動制限の余韻は容易に解消するとも思えませんが、会員諸氏におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

例えば、2020年1月の新型コロナウイルス感染症の感染が確認され、4月には特別措置法による緊急事態宣言が発出、経験したことのない行動制限が課され、私たちの日常生活や行動が大きく制限されました。国際善隣協会の活動も例にもれずほぼ停止状態となり、会員諸氏との交流の場は閉ざされ、先輩・同僚との歓談はおろかご不幸にも欠礼するありさまとなり慙愧に堪えませんでした。ようやく昨年5月にこの感染症の感染法上の位置付けが季節性インフルエンザと同じ扱いに緩和され、徐々に日常生活を取り戻しつつありますが、この間

さまざまな経験・体験をしました。

騒動の発端は2月に横浜港に入港したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」乗客の集団感染報道でしたが、緊急事態宣言による「ソーシャルディスタンス」「3密回避」「うがい・手洗い」など感染予防の行動が奨励されました。私も品薄になったマスクの調達にドラッグストアを巡ったり、ワクチン接種の予約に電話をかけたままくったりと非日常を経験しました。その後もコロナウイルスは数次にわたり感染拡大を繰り返し、ワクチンの接種も7回を数えましたが、完全な終息には至っていないようです。

この騒動で日常行動が大きく変わりました。「リモートワーク」「オンライン授業」などが奨励され、人が集まる「飲食店」「劇場」などは営業を停止したり閑古鳥が鳴きましたが、最も影響

を受けたのは学校教育ではないでしょうか。政府の全国小・中学校への臨時休校要請などもありましたが、感染予防のため学校での授業にオンライン授業が取り入れられ、学習ツールとしてタブレット端末の利用が普及しました。特に心配なのは義務教育世代への影響でしょうか。義務教育の小・中学校9年間は座学だけでなく同世代とのコミュニケーションや教員との応答を通して、人格の形成や社会生活の仕組みを習得することも大きな目的のはずです。それだけでなく、昨今は知育教育が前面に押し出され同世代との交流が疎かになっていきます。世代には時代背景により象徴的な命名がなされておりますが、古くは団塊の世代、最近ではミレニアム世代・Z世代などがあるようですが、コロナ世代は成人するころにはなんと呼ばれるのでしょうか。

もう一つ、この間の大事件に触れないわけにはゆきません。2022年2月に勃発した、ロシアによるウクライナ侵攻です。ロシアは「特別軍事作戦」と称していますが、明らかに「戦争」

です。なぜ、この時代にロシアは武力による現状変更を試みるのか私の理解を超えますが、その戦争は現在も続いております。軍事大国ロシアに対しウクライナにはアメリカを始めEU各国が軍事支援をしており、ロシア対西欧の代理戦争の様相を呈しています。まさか、ロシアが冷戦終結後の西欧中心の世界秩序の変更を目指しているとも思えません。中国や北朝鮮の対応を見ますとあながち空論でもなさそうです。戦争の実情は連日メディアを賑わせていますが、不思議なのはウクライナが一方的に攻撃され、ロシア領土への反撃が見られないことです。何はともあれ、どういう形でこの戦争が終結するのかは予断を許しません。ただ、第三次世界大戦に拡大しないことを願うのみです。

ところで身近な問題で恐縮ですが、皆さんはマイナンバーカードの取得をどうされていますか。この制度は行政の効率化を題目に2016年に発足したわけですが、カードの取得率が伸び悩んでいました。私も特に必要を感じ

じませんでしたので放置していましたが、政府はカードの取得促進のため一昨年からカード取得者に2万円分のポイントを付与するキャンペーンを大々的に開始しました。行政からはカード取得要請の折り込み広告やダイレクトメールが頻繁に届くようになり、違和感はありましたがいずれ申請しなければならぬなら今のうちにということで、2万円のマイナポイント付与に引かれ申請・取得することにしました。

そこで、はたと困ったのは私のモバイル環境はガラケーに止まりスマホの環境にないことです。届いた申請書類には電子マネー・QRコード・電子決済など耳慣れない用語が並んでおり何度読んでも申請の手順が理解できません。しかたなく市役所のサポートセンターの助力を仰ぎ、ようやく申請にこぎつきました。2万ポイントプラス2万円のチャージで無事4万円分の電子マネーをゲットできました。そこで、なぜ私はデジタル化に乗り遅れてしまったのかをつらつら考えてみました。

私は、前の東京オリピックのころ

メディアの世論調査機関に就職しましたが、そのとき職場にはすでにIBMの電子計算機が導入されており、データの統計処理に活躍していました。今思えばオモチャみたいなシステムですが、当時は最先端のデジタル機器で24時間体制で稼働していました。コンピュータの性能はトランジスタの細密化により半導体の性能は日進月歩で向上し、IBMも360、370と次々に上位機種を発表、追われるように職場も最新型のコンピュータ導入に走りました。

当時のシステムはホストコンピュータと呼ばれる大型機で部屋を一つ占拠し、CPU（中央演算装置）を中心に各ユニットは直径20センチはあろうかという太い配線で結ばれており、コンピュータ室は事務所とは別電源が引かれ、発熱を冷やすため常時クーラーが稼働していました。CPUの中身は初期の集積回路（IC）で構成され、実に美しい幾何学模様で配線されているのには感銘を受けました。私が担当したのはアッセンブラーという機械語に近い言語を使ったアプリケーションプログラ

ムの作成でしたが、プログラムのバグを探すため厚さ20センチはあろうかというダンプリストを解読するため、日夜0と1のデジタルの世界に没頭していました。その後、当時の最新鋭機IBM370システムの導入を担当、日本IBMの六本木本社のシステムを使いプログラムのテストランを繰り返し、70年代の初めにシステムが無事動き出したところで、コンピュータから離れることになりました。

その後コンピュータの集積回路は半導体の極小化によりさらに大容量・高速化を実現、処理能力は飛躍的に伸長し、現在もその進化は止まるところを知らないようです。このように、私は当時デジタルの申し子だったわけですが、今ではモバイルはガラケーにたどり、パソコンはワープロ代わりの利用に留まっています。つらつら思い出すには、まずあの巨大なホストコンピュータの複雑な配線と瞬時でも給電が途絶えるとデータが毀損すると教えられた原体験、どうしても家庭電源にプラグを差し込むだけで稼働するパソコン

の性能にはなじめないのです。もう一つはパソコンの操作に論理性を認められないことです。パソコンの仕組みはわかりませんが、フローチャートを作成し数千ステップのプログラムを組み、試行錯誤を繰り返した身としてはパソコンの操作は論理性に欠け、単なる慣れにしかすぎないように思えます。私はもちろんゲーム世代ではありませんから、キーボード操作には慣れていませんし、知識にも乏しいわけですが、何か姿の见えない電子機器によってコントロールされているような違和感をおぼえます。

このたびはマイナンバーカードの申請で手間どりましたが、アナログ世代からすると現在のデジタル世界に一抹の不安を感じます。イギリスの郵便局の経理システムのプログラムミスに見られるように、利用者にとってプログラムの中身はブラックボックスになっており、今はやりのチャットGPTにしてもどのようなアルゴリズムで作られているかは定かではありません。電子機器の利便性を否定はしませんが、

少なくともどんな目的で作られ、私たちにどんな影響を与えるかはきちんと押さえておきたいものです。

追記…この稿を執筆中の正月に能登地方でM7・6の大きな地震が起きました。200人以上の方が犠牲になり、家屋や道路など多くのインフラが損傷を受けました。これからの復興には多くの時間がかかると思います。お悔やみを申し上げると同時に早期の再建をお祈り申し上げます。

ところで、2016年の熊本地震のあと、私は本誌のコラムに、日本には2000か所ほどの活断層があり、もし活断層が2000年に1回ずれるとすると毎年、2万年に1回なら10年に1度日本のどこかで大揺れするのではと書きましたが、阪神・淡路、東日本、熊本とその通りになってしまいました。衛星写真の日本列島を見れば九州・四国・紀伊半島を東西に走る中央構造線、本州中央部を南北に縦断する糸魚川・静岡構造線（フォッサマグナ）など皺だらけです。いくつものプレートが重なり合う日本列島。気を付けましょう。